

(様式 4)

【印南町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」

(令和3年1月) から、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

これを実現するために ICT の活用は必要不可欠であり、これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要となる。

本町の小中学校では ICT の利活用に向けて各校の実態に合わせ、ICT 活用に関する研修や研究授業を行っている。その際、ICT を活用すること自体を目的化しないよう留意しながら取組を進めてきた。また、本町では研究指定校による実践発表や ICT 活用研究協議会による意見交換等により、GIGA スクール構想の実現に伴う 1 人 1 台端末の積極的な活用を促進してきた。実践発表会等による学校間の情報共有を行い、各学校の ICT 活用の質を高めるとともに、各校の課題解決に向けた協議だけでなく、基礎的な知識や操作研修など個人の情報活用能力を高めるための研修等の機会も確保してきた。このような取組を進める中、次のような力を子どもたちに育むことを目指す。

本町においては、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するための必要な環境を整え、これらを適切に活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。

2. GIGA 第 1 期の総括

本町は、令和 2 年度に印南町立小中学校 8 校の普通教室と特別教室に電子黒板を整備し、1 人 1 台端末の整備も完了し、ICT 環境の充実に積極的に取り組んできた。

学校現場では各教科や学習内容に応じて、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ」、「発信・表現」のツールとして端末を日常的に活用しています。また、全小中学校の全学年において、町として持ち帰りを推奨し、家庭に持ち帰ることを当たり前にするすることで、児童生徒が家庭でも端末を活用した学習等に取り組めるようにしてきた。

さらに、臨時休校等の学びの保障として、授業支援ソフトウェアやウェブ会議システムを活用したオンライン学習を充実させられるように取り組んでいる。

端末を使って児童生徒が自分の考えをまとめ、共有し、学びを深めていくための授業支援ソフトウェアや児童生徒一人ひとりの理解度にあわせて問題を出すデジタルドリルを利用するなど、各校に応じた個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進してきました。

これらの取組の結果、本町では、令和6年度に実施した全国学力・学習状況調査で、「授業でタブレットなどのICT機器をほぼ毎日、週3回以上使用した割合」や「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで学習内容がよく分かる割合」が全国や県平均と比べて高い数値を示すなど、ICTが児童生徒にとって定着しつつある。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期では、1人1台端末を日常的に活用し、各校において効果的な活用を試行錯誤した結果、児童生徒にとって必要不可欠なものとなっている。

そのような中、令和2年度に整備した1人1台端末は、導入後3年以上が経過し、故障により授業での活用に支障が出る場面が増えつつある。児童生徒の学びを止めないためにも、1人1台端末の着実かつ円滑な更新を進めていく。

GIGA第2期においては、次のとおり、1人1台端末の利活用を推進し、「生きる力」の育成を図る。

【個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】

各校における学習において、子どもを主語にした学習の取組をすすめるためにICTの活用は必要不可欠である。今後も、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、児童生徒が自らの考えで、目的や場面に合わせてICTを使い分けて効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成するために、各校での実践や研修を進めていく。

個別最適な学びが進められるよう、ICTを活用することで、児童生徒一人一人の理解に努め、個々の興味・関心等を踏まえたきめ細かな指導・支援ができるよう、デジタル教材等の活用を研究していく。

また、探究的な学習や体験活動等を通じて、児童生徒同士または多様な他者と協働しながら協働的な学びを充実させることができるよう、ICTの活用を推進していく。

【学びの保障】

不登校や病気療養等、児童生徒の実態に合わせて、1人1台端末の活用を進め、様々な状況におかれた児童生徒の学習機会を確保していく必要がある。各学校の状況に合わせ、授業のオンライン配信やデジタル教材の活用などを推進していく。